

2020年シンポジウム：「小児医療における多職種連携：国立病院機構が担うべき小児医療のありかたを模索する」

当院における「小児神経医療」の 多職種連携

澤井 康子[†]

第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 4 (284-287) 2022

要旨

国立病院機構奈良医療センター（当院）の小児科医は1名であり、その状況では、さまざまな医療を展開するには、多職種による協力がなければ、医療が成立しない。それゆえ、必然的に、多職種連携がなされる方向にむいていると考えている。当院の小児科では「小児神経科」を標榜しており、主に「てんかん」「重症心身障害」の診療に力を入れている。この分野において、多職種で展開している医療について紹介する。

てんかん医療：当院は奈良県における「てんかん診療拠点病院」と指定された。これにより、難治性てんかんをふくめたあらゆるてんかんの治療・連携機関との連絡・てんかんについての地域への啓発活動・てんかん患者に対する生活支援等、てんかんに関するあらゆるニーズに対応できるように体制を整える必要がある。そのためには、幅広い職種のさまざまな知識・技術を動員する必要がある。

重症心身障害医療：医療・福祉の両面から支える必要のある医療と考えられる。当院では、長期入所・短期入所・通所事業を展開している。約10年前は、重症心身障害児者（以下、重障者）病棟の担当医は、小児科医のみであった。しかし、患者の高齢化と、当院の小児科医の減員にともない、成人科へのトランジションをゆっくり進めている。医療のみならず、重障者の生活の質の向上も重要なことである。重障者医療は、とくに多くの医療職・福祉職等の多職種が関わる必要のある分野ではなかろうか。そのような協力関係をとるうちに、それぞれの職種が自分のもつ技術・能力を向上させ、それを提供していこうという気持ちをもつようになる。また、お互いに対する、リスペクトが生まれる印象がある。

多職種によるチーム医療を遂行することは、今後もより質の高い医療を提供してゆける可能性を感じている。

キーワード 小児神経、連携、てんかん、重症心身障害

国立病院機構奈良医療センター（当院）は、奈良県奈良市にあり、「呼吸器疾患と神経疾患の診療を中心とした病院」として、その分野に特化した形で地域医療を担っている。この度、「小児医療におけ

る多職種連携」というテーマをいただいたため、当院での連携について紹介したい。

当院の小児科医は1名であり、その状況では、さまざまな医療を展開するには、多職種による協力が

国立病院機構奈良医療センター 小児神経科 [†]医師

著者連絡先：澤井康子 国立病院機構奈良医療センター 小児神経科 〒630-8053 奈良県奈良市七条二丁目789

e-mail : sawai.yasuko.gr@mail.hosp.go.jp

(2021年3月9日受付, 2021年12月10日受理)

Multidisciplinary Collaboration Pediatric Neurology at our Hospital

Yasuko Sawai, NHO Nara Medical Center

(Received Mar. 9, 2021, Accepted Dec. 10, 2021)

Key Words : child neurology, cooperation, epilepsy, severe disabilities